

☆年間第30主日(10月23日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (シラ書 35 章 15-17, 20-22 節)

主は裁く方であり、人を偏り見られることはない。
貧しいからといって主はえこひいきされないが、
虐げられている者の祈りを聞き入れられる。
主はみなしごの願いを無視されず、
やもめの訴える苦情を顧みられる。
御旨に従って主に仕える人は受け入れられ、その祈りは雲にまで届く。
謙虚な人の祈りは、雲を突き抜けて行き、
それが主に届くまで、彼は慰めを得ない。
彼は祈り続ける。いと高き方が彼を訪れ、
正しい人々のために裁きをなし、正義を行われるときまで。

第二朗読 (使徒パウロのテモテへの手紙 II 4 章 6-8, 16-18 節)

愛する者よ、わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるのです。しかし、わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます。
わたしの最初の弁明のときには、だれも助けてくれず、皆わたしを見捨てました。彼らにその責めが負わされませんように。しかし、わたしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわたしのそばにいて、力づけてくださいました。そして、わたしは獅子の口から救われました。主はわたしをすべての悪い業から助け出し、天にある御自分の国へ救い入れてくださいます。主に栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

福音朗読（ルカ 18 章 9-14 節）

そのとき、自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

秋も深まりつつあります。夏に肥料をたくさんやったブドウ棚に 30 房のブドウが実りました。先週の木曜日に幼稚園の子どもと一緒にふた房収穫して食べました。酸っぱいと言う子やあまーいと言う子もいてまあまあの出来でした。あとの残りは今週いただく予定です。やっぱり何事にも手を入れることが大事だなと感じました。私たちの信仰生活にも肥やしとしての祈りや隣人愛の実践が信仰生活に実りをもたらすのですね。

今日のミサは「世界宣教の日」に当たり祈りと愛の業の実践で宣教活動を推進する日になっています。物の値上がりが厳しい現在ですが、神の国の活動にもご支援をお願いします。今日のミサでは「自分のありのままを神様に差し出す」ことが祈られています。「差し出す」ことは神さまに自分をゆだねることを意味しますが、愛である神様は私たちに良いものをもって報いてくださいます。信頼をもって自分を差し出しましょう。

第一朗読（シラ書 35 章 15-17, 20-22 節）

祈る人の姿とその報いが記されています。虐げられた人、みなしご、寡婦の訴えは顧みられると。またみ旨に従う人は受け入れられ、その祈りは雲にまで届く。そして謙遜な人の祈りは雲を突き抜けていく。彼は祈り続ける。これらの言葉は祈り願い続けることの大切さを私たちに教えてくれます。祈りの時に気が散ることはあるでしょう。だからと言ってその祈りに力がないとは言えません。祈りとは神さまとのお話しですから、子どものように親に願う心で祈ることが大事なのです。父である神は私たちの信頼を込めた祈りを待っておられるのです。

第二朗読（使徒パウロのテモテへの手紙 II 4 章 6-8, 16-18 節）

この手紙でパウロは「私を通して福音があまねく延べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために」私を力づけてくださったと述べています。パウロにとって世界への福音の宣教こそ自分の大事な使命だと認識し活動していたのです。そしてその報いとしての神の国の栄冠をもうすぐいただきますと述べて、自分の殉教が近いことを告げています。使徒言行録や数々の手紙で私たちはパウロが世界宣教活動に邁進していた姿を知ることができます。もちろん宣教活動にもいろいろの方法があります。パウロのように激しく説得する方法や、幼いイエスの聖テレジアのように修道院の奥まった部屋で祈りによって宣教活動をしている人々のために祈る方法もあります。いずれにせよ、実際に行動を起こすことが大切なのです。

福音朗読（ルカ 18 章 9-14 節）

イエスは祈る人の二つの対照的な姿を私たちに話してくださいます。一人は自分がどれだけ善人であるかを神に伝えながら祈ったファリサイ派の人、この人の生活は立派だと言えますが、うぬぼれが過ぎます。もう一人は遠くに立って、目を天に上げようともせず胸を打ちながら、ただ「罪人の私を

憐れんでください」と祈るばかりの人。イエスは傲慢な人の祈りは聞き入れてもらえないと語っています。私の祈りはどうでしょうか。



ぶどう狩り(サレジオ幼稚園) 2022年10月

P.S.

日本にはいくつかの外国宣教会が活動しています。パリミッション会、ミラノ宣教会など。国を離れての宣教活動は昔ほど大変ではないかもしれませんが、それでも相当な信仰が必要なんではないでしょうか。外国からの宣教師、シスターの方のために祈り生活を支援しましょう。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光